

一生懸命、運動に取り組む 子どもの育成

大分県別府市立山の手小学校

全校児童数	561名(男子271名 女子290名)		
全クラス数	22	教職員数	46名
体育専科教員訪問学校数			1校
訪問校	別府市立境川小学校		
体育専科教員名		伊東 雅弘	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆一生懸命、運動に取り組む子どもの育成

体育専科教員が入って5年目。今年はコロナの影響で6月から学校が始まる。3密・ウイルス感染防止等を考え、また、全体の授業の遅れ等から体育の授業は、週2時間程度で行う。コロナ禍で、できる種目も限られてくるが、今年も引き続き体育専科教員による系統的な体育学習、日常的な体力づくりを行い、子どもたちが自ら挑む体育を目指し「一生懸命、運動に取り組む子どもの育成」に取り組むことにした。

2 取組の計画

① 体育学習での取り組み

- ・体育専科教員を中心にT T体制で体育学習に取り組む。ほとんどの単元でT1を担任にしてもらい、指導力アップも図る。
- ・授業の流れを示し、子どもに「次に何をやる」という見通しをもたせる。また「今日、何を上手にするか」めあてを持たせ、時間いっぱい取り組めるようにする。

② 日常生活での取り組み

- ・毎日、朝と中休み、50m走に取り組めるようにする。
- ・3学期は合わせてジョギングにも取り組んでいく。

Do：実践内容

1 体育活動の実践

(1) 体育専科教員と担任とのT T体制、少人数指導

多くの時間、T1を担任が行い、T2を体育専科教員が行う。特に、ティーボール、跳び箱、ミニバレーボールでは、担任が全体の流れを指導し、体育専科教員が技術的なアドバイスをを行うようにしている。また、走り幅跳びと鉄棒を組合せ、指導種目を分け、半数ずつ教えることにより、子どもに多くの挑戦ができるようにした。

(2) 学習の流れ「45分間、フルに体育」

授業時間を有効に活用し、常に体を動かせるよう工夫する。

- ①指導の流れを毎時間、同じにして、子どもたちが1時間の見通しを持てるようにする。
- ②ビブス、コーン、ケンステップ等、色で指示を伝えることで、子どもの動きをスムーズにする。
- ③めあてを持たせ、振り返りをさせることで、今日は何をがんばるかをわかりやすくする。(学習カードを使う)

2 毎日取り組む50m走

朝始業前と中休みの時間に、50m走に毎日取り組み、運動の基礎づくりにしている。学習カードに色を塗る等、個人で目標を立てやすくしている。学級のカードも使い、学級全体で取り組めるようにしている。(年間)

●工夫したこと (&苦労した点)

- ①T T指導で1時間目に体育専科教員がT1で授業の流れを見せ、2時間目以降を担当にT1をしてもらい、指導力アップを図っている。指導例として、指導の流れ、場の設定の工夫等をプリントにして紹介した。
- ②見合い・学び合い：跳び箱の学習において、跳ぶ→マットをなおして「ハイ」→アドバイスゾーンでアドバイス→並ぶと流れを決め、アドバイスし合えるようにした。また、アドバイスも・ふみきり・着手・着地の3つのポイントにしぼったことで、よりうまく跳べる動きづくりのヒントになった。
- ③学習カード：学び合いのヒントになり、自己評価やふりかえりに使うことができた。
- ④壁新聞：学習の様子の写真に吹き出しで、運動のポイントやコツ等を記入して掲示板に掲示し、学習のヒントにした。

Check：取組の成果

- ①校内のアンケート調査の結果では、全員の先生が、「ビブス、ケンステップ等、色を使った指示が子どもにわかりやすい」「運動のポイントをトン等の音で伝える方法」「子どもにあったボールの選び方」等、体育の授業の参考になったと答えた。特に、ティーボール、跳び箱、走り幅跳び等をT1で行い、指導の実践をした。
- ②学習カードを使って、毎時間「めあて・振り返り」を書かせ、運動を主体的に行わせたり、体を動かしている時間を増やしたりしてきた。校内で行っているアンケート調査の結果では、89%の子どもが運動を一生懸命したと、79%の子どもが体育が好きと回答していた。
- ③50m走は各自の学習カードも学級のカードも定着し、目標の2枚以上を達成した。

Action：今後の課題

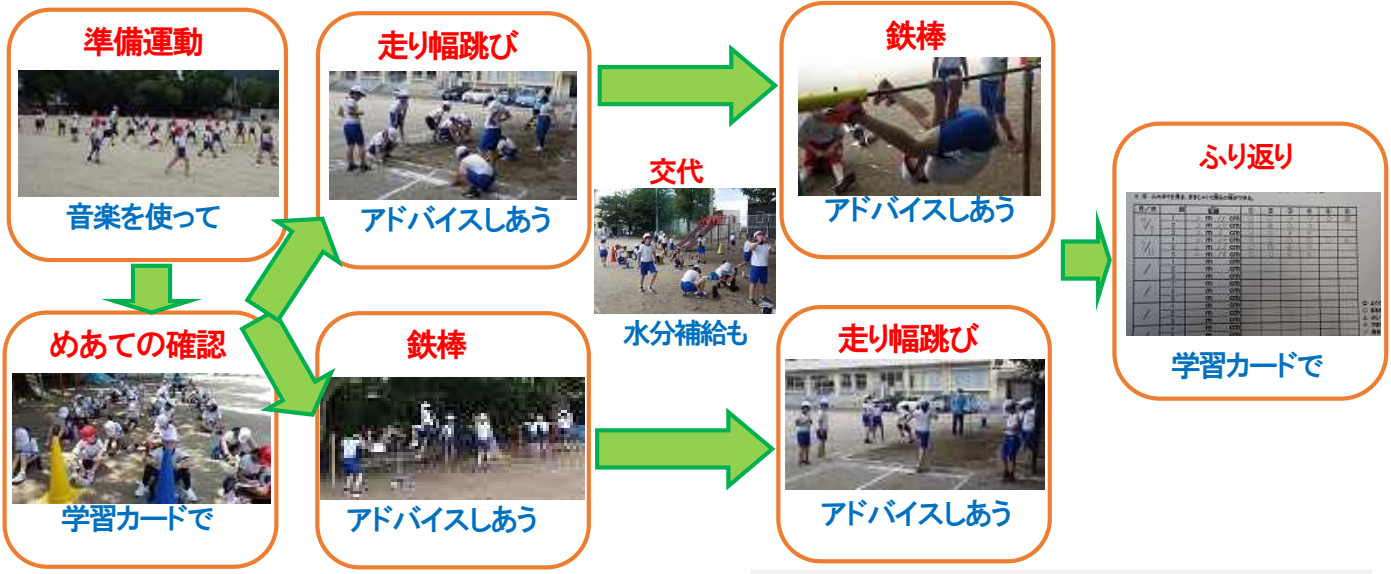
- ①体育学習の指導方法の工夫と、T T体制や少人数指導法の探求が必要である。授業の中に子ども同士の学び合いの場を仕組むことで、運動に対する興味、技術の向上がみられる。学び合いの仕組み方を工夫する。
- ②担任の指導力アップのため、授業の流し方、子どもへの指導の仕方等を体育専科教員と一緒に実践していく。(指導例をプリントにして紹介していく。)
- ③50m走のさらなる充実に向け、学級の係活動や運動委員会の取り組みと関連させることも必要である。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

休み時間に、外遊びをする子どもが増え、ボール遊びだけでなく、鉄棒・なわとび・長縄・一輪車・おにごっこ等の遊びも盛んに行われるようになった。

「TTで少人数指導：走り幅跳び・鉄棒」における45分間、フルに体育

走る → 準備運動 → めあての確認 → 走り幅跳び・計測 アドバイス → 鉄棒・アドバイス → 振り返り
 → 鉄棒・アドバイス → 走り幅跳び・計測 アドバイス →



T1を担当・T2を体育専科教員

A組：跳び箱運動・B組：ティーボール

サッカー
まわりを見て！
ドリブル、ドリブル！
体づくり
体まっすぐ！

跳び箱運動
手をつけてクルン！
坂道を使って！

ティーボール
おなかを上げて！
ボール見て打って！
次、2塁に走って！

兼務校の授業「マット運動・ティーボール」

運動のポイント

毎日の活動 50m走

マット運動
手のつきOK！
着地をトン！

ティーボール
後ろ頭、クルン！
3塁に走って！
打ったよ！

壁新聞
体育の授業は
手をしっかりつく！
廊下に運動のヒントがいっぱい！

毎日の活動 50m走
毎日、走るよ！
クラスでもがんばってます！